

○事業所名	伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹		
○保護者評価実施期間	令和8年2月21日	～	令和8年3月3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	令和8年2月25日	～	令和8年3月3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数) 28名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月23日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に基づく質の高い発達支援	<ul style="list-style-type: none"> ・公認心理師・言語聴覚士による専門的アセスメントを実施し、児童発達支援管理責任者、クラス担当職員、相談支援専門員が会議に参加して5領域を踏まえた個別支援計画を作成しています。 ・保護者評価では個別支援計画の作成・内容・実施について100%が「はい」と回答があり、定期的なモニタリングも100%実施しています。各クラス職員全員で個別支援計画の検討を行ない、計画に沿った支援を職員間で共有して実施しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画の要点を共有し、支援ポイント確認時間、実施状況振り返り時間を設定し、PDCAサイクルを機能させます。 ・専門職による個別支援を実施した際は、連絡帳や面談で内容と成果を保護者に報告し、専門性の高い支援を実感していただける体制を強化します。
2	保護者との密な連携と信頼関係	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者面談、連絡帳、電話、マチコミ、ホームページなど複数の手段を活用し、園と家庭の連携を図っています。入園後は2か月間毎月面談を行ない、定期的な個別面談や心理検査の報告を通してお子さんの傾向や特性に応じた関わり方をお伝えしています。 ・保護者評価で「日頃からの情報共有」83%、「定期面談・育児助言」94%、「相談・申入れ対応」94%の高評価を得ており、「迅速で丁寧な対応」として保護者から信頼されています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの相談内容と園の対応を記録・共有することで認識のズレを 방지、定期面談の回数を見直すとともに面談以外でも随時相談を受け付けます。 ・保護者懇談会を早期に開催し、父親も参加しやすい土曜日開催やオンライン参加の選択肢も検討します。
3	安全管理体制と家族支援プログラムの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対応・防犯・感染症対応の各マニュアルを整備し、職員評価で82%が「はい」と回答しています。定期的(毎月)に地震と火事を想定した訓練を行ない、ヒヤリハット事例をラインワークスなどを使用し作成して情報共有を図っています。 ・保護者懇談会や勉強会の開催、試食会の実施など保護者間の交流も図っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練実施後は必ず振り返り時間を設け、改善点を明確化し、次回訓練で検証するPDCAサイクルを年間訓練計画に組み込みます。 ・年1回、広域避難場所までの避難訓練を実施し、実際の避難経路確認や移動時の課題を洗い出し、対応マニュアルに反映させます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設の老朽化と環境整備の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・建物は元保育園の構造となっており、構造変更が困難で、老朽化により壁紙破損や床劣化があります。保護者からも「建物が高い」「洗濯機をきれいに」との指摘があり、クールダウン専用スペース不足や階段手すりの片側設置など安全面での課題もあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パーテーションの定期点検を実施し、不足分や破損箇所を補修・更新します。破損箇所については「修繕要望リスト」を作成し、危険度と使用頻度に基づく優先順位をつけて、行政とも設備面について検討を行ないます。 ・視覚支援ツールの作成・管理について統一を図るとともに、必要な教材が常時準備できる体制を整えます。
2	職員配置の余裕不足と業務体制の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・職員配置については、法令上の人員配置以上の配置は行っていますが、複数児童対応時の人手不足、急な欠勤時の配置困難な状況もあります。 ・保護者からも「お子さんに付きっきりになっている」との指摘があり、振り返りや打ち合わせは充実してきていますが、事務作業の時間がとれなくなっている面もあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月初めに職員の休暇予定を共有し、配置調整を事前に行なっています。 ・引き続きボランティアの受け入れを行ない、潜在的なボランティアの発掘を行なうとともに、求人募集を適時行い職員確保に努めます。 ・1日のタイムテーブルを見直し、振り返り時間を確保し、全職員が支援目標等の確認ができるようICTの活用や情報共有の機会を設けます。
3	地域交流機会の不足と社会参加支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者評価で「保育所・幼稚園等との交流機会」について「いいえ」83%と圧倒的に低評価です。保護者から「年長児は就学に向けて他園児との交流が必要」「地域の幼稚園等との交流機会を作ってほしい」との強い要望があります。 ・現状では一緒に活動する機会の予定はありませんでした。市役所関係部署との相談をしていますが、具体的実施には至っていません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園、幼稚園、学校等との交流プログラムの実施に向けて、市役所関係部署との協議検討を継続します。 ・小学校の様子や引継ぎ内容を職員間で共有できるように工夫し、就学支援の一環として小学校との連携を強化を図ります。

※この総括表は、職員28名(回収率100%)と保護者18名(回収率69%)からいただいた貴重なご意見を基に作成いたしました。今後も継続的な改善に取り組み、子どもたち一人ひとりの健やかな成長を支援してまいります。